

平成 12 年の病虫害発生と防除

農林水産省農産園芸局植物防疫課

I 夏期間の気象経過の概要と水稲の作柄

1 天候経過

今冬（12～2月）は、各月の後半に冬型の気圧配置が現れ、寒気が南下することが多かったものの、それ以外は冬型の気圧配置はほとんど現れず、全国的に顕著な高温となった。この暖冬の傾向は、80年代後半から継続している。今春（3～5月）は、東日本で引き続き高温となったものの、その他地域では、低気圧や前線の影響を受けることがあり、気温は平年並みで全国的な高温傾向は一時的に和らいだ。この期間、主に北日本を除き、日本列島は高気圧に覆われ晴れの日が続いたため、水稲、果樹をはじめとした農作物の生育は順調に進んだ。

梅雨入りは、西日本～東日本までは6月9日までにほぼ平年並みで梅雨入りし、沖縄・奄美は、移動性高気圧に覆われたため平年より1週間～10日、東北北部は梅雨前線の北上が遅れ平年より10日程度遅くなった。

梅雨期間は、7月に太平洋高気圧の日本の南海上への

張り出しが弱く、梅雨前線の活動が不活発だったため西日本と東日本の一部では降水量がかなり少なく、特に、近畿地方日本海側～中国地方では平年の半分以下のところが多かった。このため、地域によって渇水になる恐れがあり、気象情報ではダム等における水管理、農作物の生育への影響等に留意するよう呼びかけた。

梅雨明けは、7月上旬は太平洋高気圧の勢力が弱かったが、中旬からは太平洋高気圧の勢力が強まり梅雨前線を北へ押し上げたため、ほぼ平年並みに明けた。

今年の夏期間（6～8月）は、天候に恵まれたことから全国的に高温が続き、北・東日本の広い地域で平年より1.5～2.0℃高く、降水量は、北海道の一部、関東甲信、九州南部を除き平年の60%以下となった。このため、果樹のうち、みかん等は果実の肥大抑制が懸念された。

9月に入ると、全国的な高温は継続するとともに、秋雨前線の活発化及び台風接近の影響で東海地方中心に大雨となり、降水量は全国的に平年を上回った。大型で強い台風第14号は、前線を刺激しながら沖縄本島を通過

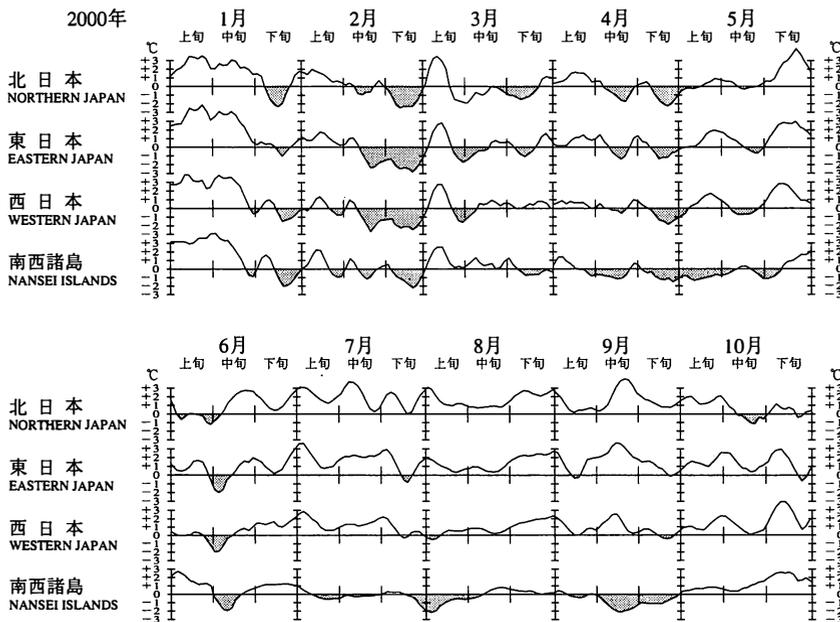


図-1 地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

し、東シナ海を北上した。このため、東海地方 (9/11~12) を中心に大雨となり、台風が通過した九州、沖縄地方 (9/12~16) は大雨、暴風となった。さらに、前線の影響で関東・東山地方 (9/16~18) は、局地的な大雨となった。これにより、野菜、水稻、豆類に、浸・冠水、工芸作物に倒伏等の被害が発生した。

2 水稻の作柄

10月25日現在、本年産の水稻の作付面積は約176万haで、前年に比べ1万7千ha (1%) 減少した。10a当たりの収量は、全国平均で537kgが見込まれる。予想収穫量は、全国平均で104の「やや良」となっており、前年差に比べ3%増の947万4千tとなっている。

地域別に見ると、北海道、東北及び北陸は、7月の高温等により、もみ数がやや少ないものの、9月も高温に経過し登熟は良好に推移したことから、作柄は東北が104、北海道及び北陸が103の「やや良」であった。関東・東山では、もみ数が年並みでないし多く、登熟は作期の遅い地域で9月上旬の高温及びその後の秋雨前線の影響により抑制されたものの、その他の地域では出穂期以降天候に恵まれたことから順調に推移し、105の「やや良」となった。東海以西では、7月以降概ね天候に恵まれたことから、もみ数は年並みでないし多く、登熟は台風の影響もなく順調に推移し、近畿及び中国が104、東海、四国及び九州が103のいずれも「やや良」となった。

II 病害虫の発生の概要

1 水稻

年明けから全国的に高温傾向が続いたが、昨年に比べ高温の程度は緩やかで、日照時間も長いことから、水稻を初めとした農作物の生育は順調に推移した。いもち病の発生は、昨年が平成5年の大冷害以降、最少の発生面積で伝染源量が少なかったと推測されること、また、梅雨入り後は前線の活動が不活発で連続した降雨日が少なく、梅雨明け後も広い地域で天候に恵まれたことから、その発生は抑えられた。本年、いもち病に関する注意報は、7月中旬~下旬にかけて、寒冷前線の南下等で曇りや雨の日が続いた東北及び九州中心に、いもち病の発生が懸念され、12県から延べ16件 (一昨年は40県から延べ77件) 発表された。本年の注意報数は、平成5年の大冷害以来最低数となった昨年の発表数を、若干上回る程度であった (昨年9県から延べ11件)。

害虫では、ウンカ類の初飛来は5月下旬の中国、四国及び九州地方で確認され、梅雨前線の動きが活発化した6月20日前後から7月初めにかけて、西日本中心に広い地域で飛来波があった。これら飛来のほとんどはセジ

ロウンカであり、予防剤の普及もあり「年並み」以下の発生となった。本年、ウンカに関する注意報は関東甲信地方でセジロウンカが3件発表された。(昨年は飛来数自体極端に少なく、注意報、警報が一度も発表されなかった。)

一方、後期害虫では、昨年に引き続き斑点米カメムシ類が全国的に多発生となった。斑点米カメムシ類の発生面積は、全国計で約61万haを記録し、発生面積統計が開始された昭和56年以降最高値であった昨年の発生 (約41万ha) を上回った。都道府県の発表する発生予察情報についても、警報10件、注意報は36県から延べ47件が発表され、過去最高数となった。(昨年は、注意報20件) 多発生の要因は、気象による影響 (高温) が最も大きい、加えて斑点米カメムシ類が発生しやすい休耕田、米の生産調整における地力増進作物、飼料作物等の面積が増加し、かつ優占種も変化していること等に対応し、予察調査法、要防除水準の見直しが進んでいないことも、難防除となっている原因となっている。

2 その他普通作

海外から飛来するアワヨトウが、昭和62年以来、東北の日本海側、北陸を中心に発生し問題となった。アワヨトウの飛来に好適な条件は、本年北陸農政局が開催した発生要因の解析検討会の石川県農業総合研究センター報告によれば、「太平洋高気圧が張り出し、高気圧の縁に沿って卓越した偏西風 (南西風) が発生する」といわれているが、本年はウンカ類が初飛来した5月下旬にあわせて飛来したと考えられる。その後、6月が少雨で増殖にも好適となり、アワヨトウによる被害は、北陸でイネ科牧草で約1,598ha、水稻約67ha等であった。

その後、ダイズで、吸索性カメムシ類が、西日本中心に「やや多」の発生となった。また、ハスモンヨトウも、夏期間高温傾向が続いたことから、全国的に「やや多」の発生となった。

3 果樹等

春先に曇りや雨の日が続いた東北地方で、リンゴモニア病、おうとう灰星病等の病害の発生が目立った。

害虫では、果樹カメムシ類について、昨年8月以降の当年世代成虫が多かったこともあり、本年5月以降、越冬明け成虫に対する注意報が21県、8月以降の当年世代成虫に対しては4県から注意報が発表され、北日本を除く広域な地域で「やや多」となった。

4 野菜及び花き

ダイズ同様、夏期の高温、少雨によりハスモンヨトウの発生が全国的に多く、21県から延べ23件の注意報が発表された。

表 - 1 病害虫別発生・防除状況 (平成 12 年 10 月 1 日現在)

(単位: 千 ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考	
(イネ)					
葉いもち	平年並以下	492 (109)	1,541 (89)	ここ 10 年で最少発生面積	
穂いもち	平年並以下, 関東・西日本の一部やや多	263 (80)	1,836 (91)		
紋枯病	東・西日本の一部でやや多~多	692 (96)	937 (99)		
白葉枯病	平年並以下, 東海の一部やや多	16 (100)	29 (21)		
縞葉枯病	東海及び九州の一部でやや多~多	15 (37)	—		
ばか苗病	関東, 東海及び四国の一部でやや多	18 (90)	1,393 (100)		
もみ枯細菌病	平年並以下	46 (82)	87 (73)		
稲こうじ病	平年並以下	84 (81)	51 (88)		
ニカメイガ	平年並以下	159 (97)	728 (94)		
セジロウンカ	近畿, 四国及び九州の一部でやや多	834 (123)	1,271 (115)		
トビロウンカ	少ない	51 (63)	858 (105)		昨年は全国的に多発した
ヒメトビウンカ	関東, 東海及び西日本の一部でやや多	582 (101)	1,166 (109)		
ツマグロヨコバイ	東日本の一部では多の地域があり	692 (97)	1,047 (108)		
イネドロオイムシ	東海, 中国及び四国の一部でやや多	239 (87)	648 (87)		
斑点米カメムシ類	全国的にやや多~多	613 (127)	1,665 (115)	春先からの高温傾向等	
コブノメイガ	関東及び西日本の一部ではやや多~多	300 (91)	492 (115)		
イネミズゾウムシ	平年並以下	811 (95)	867 (92)		
(ムギ類)					
さび病類	北日本の一部でやや多~多	41 (84)	164 (85)	種子消毒の不徹底	
斑葉病	西日本の一部でやや多~多	5 (71)	17 (243)		
うどんこ病	中国, 九州の一部でやや多	60 (105)	204 (107)		
赤かび病	平年並以下	48 (76)	251 (103)	昨年は全国的に多発 根雪が早かった	
雪腐病	北日本でやや多~多	45 (73)	86 (90)		
(ジャガイモ)					
疫病	北日本で少ない, その他平年並	20 (111)	352 (95)		
(ダイズ)					
紫斑病	平年並以下	8 (400)	45 (110)		
吸蜜性カメムシ類		28 (165)	71 (197)		
ハスモンヨトウ		42 (108)	73 (178)		
ハダニ類		10 (91)	1 (50)		
アブラムシ類		28 (104)	65 (69)		
(カンキツ類)					
そうか病	平年並以下	11 (73)	84 (95)	昨年の病害は多発した	
黒点病	中国四国及び九州の一部で多	60 (85)	257 (92)		
かいよう病	平年並以下	14 (67)	68 (69)		
カメムシ類		4 (50)	26 (52)		
ヤノネカイガラムシ	平年並	5 (100)	75 (103)		
ミカンハダニ	平年並	65 (101)	240 (97)		
(リンゴ)					
腐らん病	北日本でやや多~多	8 (100)	81 (79)	病斑削り取りの不徹底等	
モニリア病	平年並	3 (300)	72 (114)		
斑点落葉病	北日本及び関東の一部でやや多~多	17 (71)	377 (98)		
黒星病	平年並以下	2 (50)	288 (117)		
ハマキムシ類	東北及び北陸の一部でやや多	4 (80)	164 (99)		
ハダニ類	平年並	14 (117)	138 (103)		
(ナシ)					
黒斑病	中国の一部でやや多~多	2 (67)	64 (90)	病害は昨年多発した	
黒星病	北日本の一部では多	4 (80)	137 (100)		
カメムシ類		2 (100)	35 (121)		

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
ナシヒメシクイ	関東及び中国でやや多	1 (100)	54 (100)	
ハダニ類	平年並	7 (100)	46 (100)	
アブラムシ類	平年並	8 (80)	46 (53)	
(モモ)				
せん孔細菌病	東北、関東及び東海の一部では多	4 (100)	38 (100)	
灰星病	平年並以下	1 (100)	37 (95)	
(ブドウ)				
晩腐病	平年並	1 (50)	55 (117)	
べと病	平年並以下	5 (83)	69 (108)	
灰色かび病	〃	1 (100)	35 (121)	
(カキ)				
うどんこ病	平年並以下	8 (89)	50 (100)	
落葉病類	〃	5 (100)	48 (86)	
カキクダアザミウマ	〃	3 (100)	18 (95)	
カメムシ類		7 (140)	41 (114)	
(チャ)				
炭そ病	平年並、関東、九州の一部でやや多	33 (92)	105 (100)	
チャノコカクモンハマキ	関東で多の地域多い	10 (63)	62 (22)	
カンザワハダニ	〃	30 (94)	94 (119)	
(キュウリ)				
べと病	平年並	6 (86)	50 (86)	
うどんこ病	〃	6 (86)	44 (90)	
(スイカ)				
つる枯病	北陸でやや多	4 (100)	34 (87)	
(ハクサイ)				
軟腐病	秋冬でやや多～多	2 (40)	27 (100)	台風通過で急増
白斑病	平年並以下	2 (67)	15 (65)	
(キャベツ)				
黒腐病	夏秋以降やや多～多	1 (14)	21 (66)	台風通過で急増
コナガ	北日本でやや多～多	9 (60)	60 (87)	飛来早く、少雨
(タマネギ)				
べと病	関東、近畿及び四国の一部でやや多	1 (50)	12 (57)	
(野菜共通)				
疫病 ¹⁾	平年並以下	3 (75)	40 (73)	
灰色かび病 ²⁾	〃	5 (83)	59 (82)	
アブラムシ類 ³⁾	平年並	36 (69)	226 (84)	
ハダニ類 ⁴⁾	〃	14 (82)	66 (94)	
ハスモンヨトウ ⁵⁾	広い地域でやや多～多	9 (90)	40 (108)	
ヨトウガ ⁶⁾	平年並	9 (82)	57 (74)	
(キク)				
白さび病	平年並	1 (100)	12 (86)	平成 10 年度から開始
アザミウマ類	東日本、近畿及び九州の一部でやや多	2 (100)	9 (82)	
アブラムシ類	平年並	1 (100)	7 (70)	

¹⁾: トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ

²⁾: トマト, レタス, イチゴ

³⁾: トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ

⁴⁾: ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ

⁵⁾: ナス, レタス, サトイモ, イチゴ

⁶⁾: ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ

表-2 平成 12 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表月日，アンダーラインは警報）

(10月1日現在)

① イネ	葉いもち	穂いもち	セジロウンカ	コブノメイガ	斑点米カメムシ類	その他の病害虫
北海道	7/5				7/18, 8/3	
東	青森	7/6	7/21		7/14, 8/18	
	岩手	7/6	7/21		6/30, 7/26, <u>8/4</u>	
北	宮城				7/12, 8/4	
	秋田	7/17			7/7	
北	山形				7/6, <u>7/24</u>	
	福島				7/27	
関	茨城				7/14	
	栃木	9/8			7/19	
東	群馬					
	埼玉				7/12, 8/4	
東	千葉		8/18		8/18	
	東京都					
東	神奈川県		8/24		8/24	
	山梨	7/7	8/11		8/4	
北	長野		7/19			
	静岡県					
北	新潟		7/27		6/30, 7/18, <u>8/3</u>	
	富山				7/5, <u>7/28</u>	
陸	石川				7/6, <u>7/27</u>	
	福井	6/23, 9/7			6/27, 7/18, <u>7/28</u>	アワヨトウ：6/23
東	岐阜				7/11, 8/28	縞葉枯病（ヒメトビウンカ）：6/8
	愛知				7/13	
東	三重				7/25	
	滋賀				7/17, <u>8/3</u>	
近	京都				7/18	
	大阪				8/11	
畿	兵庫県				7/4, <u>8/1</u>	
	奈良	7/27				
中	和歌山					
	鳥取				7/19	
国	岡山				7/10, <u>7/24</u>	
	広島				7/27	
国	山口				7/26, <u>8/8</u>	
	徳島				8/1	
国	香川				7/18	紋枯病：8/2
	愛媛					
九	高知				7/21, 8/31	
	福岡				7/11, 8/25	
州	福佐	8/10	7/27, 8/10		8/10	
	長崎				7/14, 9/6	
州	熊本		8/11		7/4	
	大分		8/3			
州	宮崎		8/3			
	鹿児島				8/22	
沖	縄					

	②畑作物（イネを除く）ハスモンヨトウ	アワヨトウ	その他
北海道		6/16（イネ科作物）： 7/3（イネ科作物）：	雪腐病（コムギ）：3/28 縞萎縮病（コムギ）：6/8 ネギアザミウマ（タマネギ）：6/27 軟腐病（ばれいしょ）：7/13
東北	青森	6/14（イネ科作物等）	
北	岩手		

東 北	宮城 秋田 山形 福島		6/22 (イネ, トウモロコシ)	ダイズサヤタマバエ : 8/10
関 東 東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	8/17 (畑作物全般) 9/8 (ダイズ) 9/7 (ダイズ)		
北 陸	新潟 富山 石川 福井	8/29 (ダイズ) 8/30 (ダイズ) 9/7 (ダイズ)	6/20 (イネ科作物) 6/20 (イネ科作物)	ネキリムシ類 (ダイズ) : 6/30
東 海	岐阜 愛知 三重	8/22 (ダイズ), 9/22 8/1 (ダイズ) 8/18 (ダイズ)		
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	8/8 (豆類) 9/5 (ダイズ)		吸実性カメムシ類 (大豆, アズキ等) : 8/8
中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/7 (ダイズ) 8/25 (ダイズ) 9/11 (ダイズ)		吸実性カメムシ類 (ダイズ) : 8/11, ヤマノイモコガ (ナガイモ) : 8/25 吸実性カメムシ類 (ダイズ)
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/1 (ダイズ) 8/3 (ダイズ) 8/24 (ダイズ)		
沖 縄	沖縄	カンシャワタアブラムシ (サトウキビ) : 2/1		

③果樹 (茶を含む)

		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			モニリア病 (リンゴ) : 4/26 腐らん病 (リンゴ) : 4/26 幼果菌核病, 灰星病 (オウトウ) : 4/27
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		モニリア病 (リンゴ) : 4/11, 黒星病 (リンゴ) : 5/17, 灰星病 (オウトウ) : 5/26 腐らん病 (リンゴ) : 5/18, ナミハダニ (リンゴ) : 8/30 斑点落葉病 (リンゴ) : 7/12 モニリア病 (リンゴ) : 4/26 灰星病 (オウトウ) : 5/24 灰星病 (オウトウ) : 5/25, せん孔細菌病 (モモ) : 6/2

関東	茨城		
	栃馬		
東	群玉		
	埼葉		
東	千東		
	京奈		
東	山梨		モモハモグリガ (モモ) : 3/28
	長野		
北	新潟	9/1 (かんきつ, カキ, キウイフルーツ)	
	富山	7/6 (果樹全般)	灰星病 (モモ) : 6/2
北	石川	6/23 (ナシ, リンゴ, モモ, カキ, キウイフルーツ)	
	福井		
東	岐阜	5/24 (カキ, ナシ, モモ, ウメ, ミカン)	
	愛知	6/1 (果樹全般)	
東	三重	5/31 (ナシ, かんきつ)	
	滋賀	6/2 (カキ, ナシ, ミカン)	クワシロカイガラムシ (茶) : 4/26
近	京大	6/27 (モモ, カキ)	チャノキイロアザミウマ (ブドウ) : 6/6
	阪庫	8/16 (カキ, ナシ)	
畿	兵奈	6/9 (ウメ, モモ, スモモ, カキ, カンキツ)	
	和歌山		
中	鳥取	7/10 (果樹全般)	黒斑病 (20世紀なし) : 5/12
	島根	7/13 (果樹全般)	
国	岡山	6/30 (果樹全般)	
	広島	7/7 (果樹全般)	
四	徳島	5/26 (果樹全般)	
	香川	6/27 (果樹全般), 9/7 (カキ, ブドウ, ナシ)	
国	愛媛	6/6 (果樹全般)	イチジクヒトリモドキ (イチジク) : 6/28
	高知	8/31 (かんきつ, ナシ, カキ)	チャノキイロアザミウマ (かんきつ, カキ) : 7/10
九	福岡	6/25 (ウメ, モモ, スモモ, モモ)	フジコナカイガラムシ (カキ) : 7/12
	佐賀	5/29 (カンキツ, ピワ, 落葉果樹)	ミカンハダニ (かんきつ) 及びカンザワハダニ (茶) : 5/15
州	熊本	6/7 (ナシ, モモ, スモモ, カキ)	ミカンハダニ (かんきつ) : 9/14
	大分	7/10 (果樹全般)	
州	宮崎	5/15 (かんきつ, 落葉果樹)	カンザワハダニ, チャノキイロアザミウマ (茶) : 5/19
	鹿児島	6/26 (ナシ, カキ, かんきつ)	炭そ病 (茶) : 8/22
沖	縄		

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東	青森		褐斑病 (キュウリ) : 7/28, ナミハダニ (リンゴ) : 7/28
	岩手		コナガ (キャベツ) : 6/13
北	宮城		
	秋田		
北	山形	9/13	
	福島		
関	茨城	8/17	
	栃馬	9/25	
東	群玉	9/8	
	埼葉	9/7	
東	千東		
	京奈	8/6	ハイマダラノメイガ (アブラナ科野菜) : 8/18 ミカンキイロアザミウマ (トマト, ナス, キュウリ) : 6/7, 炭そ病及びつる枯病 (スイカ, メロン)

関東	山梨 長野 静岡		トマト黄化葉巻病 (トマト) : 2/7
北陸	新潟 富山 石川 福井	8/29 8/30 9/7	
東海	岐阜 愛知 三重	8/22 9/22 8/1 8/18	
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	8/8 9/5	カメムシ類 (果菜類) : 8/8 ミカンキイロアザミウマ (ナス, 花き) : 6/15 ハイマダラノメイガ (アブラナ科野菜) : 8/3
中国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/6 9/7 8/25 9/11	ハイマダラノメイガ (アブラナ科野菜) : 8/30 シロイチモジヨトウ (ネギ) : 9/13
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/26 8/3 8/24	すすかび病 (ナス) : 1/14, シロイチモジヨトウ (野菜, 花き) : 8/30, 炭そ病 (イチゴ) : 9/21 ハダニ類 (イチゴ) : 7/27
沖縄			うどんこ病 (施設キュウリ) 及び白さび病 (輪キク) 4/3, うどんこ病 (ニガウリ) : 5/1
⑤花き類	ハスモンヨトウ		その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	9/13	
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡	9/6	
北陸	新潟 富山 石川 福井	8/29 8/30	
東海	岐阜 豊田	8/22, 9/22	

東海	愛知 三重	知重 8/1 8/18	
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	8/8 9/5	
中国 四国	鳥取 岡山 広島 徳島 香川 愛媛 高知	9/6	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/26 8/3	シロイチモジヨトウ (花き全般) : 8/30
沖縄	沖縄		

(2) 特殊報 (数字は発表月日)

		①普通作	②果樹
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		ツマグロアオカスミカメ (リンゴ) : 8/28
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡		腐らん病 (リンゴ) : 6/2
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		アカマルカイガラムシ (かんきつ) : 1/14
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		

中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山形 徳島 香川 愛媛 高知		キウイフルーツかいよう病 (キウイフルーツ) : 7/11
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		ミカンキイロアザミウマ (ブドウ) : 5/2
沖 縄			
		③野菜	④花き類
北 海 道			
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		
関 東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	イチゴ根腐萎ちょう病 (イチゴ) : 7/10 トマト黄化葉巻病 (トマト) : 3/27 食用ナバナ花腐細菌病 (食用ナバナ) : 9/13 クローバーダニ (コマツナ, ホウレンソウ) : 6/2 イチゴ角斑細菌病 (イチゴ) : 1/28 トマト黄化葉巻病 (トマト) : 2/7	ブタクサハムシ (ヒマワリ) : 8/24
北 陸	新潟 富山 石川 福井		
東 海	岐阜 愛知 三重	ホウレンソウケナガコナダニ (ホウレンソウ) : 3/2,	
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	トマトハモグリバエ (トマト) : 9/1 トマト黄化えそウイルス (トマト, ピーマン) : 6/20 トマトハモグリバエ (カボチャ, トマト) : 9/19	トマト黄化えそウイルス (キク, ダリア) : 6/20
中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山形 徳島 香川 愛媛 高知	チシャ萎縮病 (レタス) : 1/6 ネギ根腐萎ちょう病 (ネギ) : 6/14 メロン黄化えそウイルス (キュウリ) : 7/18	きくわい化ウイロイド (キク) : 7/3 トマト黄化えそウイルス (トルコギキョウ) : 7/18

九州	福岡県	トマト黄化えそウイルス（ミニトマト）：6/27	きくえそ病（キク）：2/3
	佐賀県	トマトハモグリバエ（トマト）：8/15	
長崎県	熊本県	ホウレンソウケナガコナダニ（ホウレンソウ）：3/2	
	大分県	トマトハモグリバエ（トマト、メロン）：6/27	
宮崎県	鹿児島県		
沖縄県		ハモグリバエの一種（トマト、カボチャ）：3/30	

Ⅲ 病害虫防除事業

表-2 平成12農薬年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t, k^l, 百万円, %）

		11農薬年度 （実績）	12農薬年度（推定）	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	126,729	133,000	105
	金額	132,101	137,000	104
殺菌剤	数量	84,244	78,000	92
	金額	91,978	91,000	99
殺虫殺菌剤	数量	36,238	39,000	109
	金額	29,495	34,000	115
除草剤	数量	69,199	71,000	102
	金額	111,590	114,000	102
その他	数量	21,603	22,000	100
	金額	12,738	13,000	105
合計	数量	338,013	341,000	101
	金額	377,902	389,000	103

1 ウリミバエ

奄美群島：前年に引き続き奄美群島全域において侵入警戒調査を実施した。

沖縄県：前年に引き続き沖縄群島、宮古群島及び八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシ及びイモゾウムシ

平成9年12月に発生が確認された鹿児島県上屋久町及び屋久町におけるアリモドキゾウムシ及び屋久町におけるイモゾウムシについては、緊急防除の省令により寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において殺虫剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシを対象にして、不妊虫放飼等による実験的な根絶防除を実施した。

5 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビートルウムシ、ミカントゲコナジラミのそれぞれの天敵であるベダリアテントウムシ、ルビーアカヤドリコバチ、シルベストリコバリの増殖配布を前年に引き続き静岡県で実施した。

Ⅳ 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施延べ面積

は、3,532千haとなった。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積は777千ha、実面積は403千haで水稻栽培面積の23%に当たり、関係農家戸数は約474千戸、水稻栽培農家の22%を占め、平均1.9回の散布が実施された。剤形別、散布方法別では、本年度は液剤の通常散布47%、同じく微量散布30%の割合となった。

畑作・果樹部門は、クリ、リンゴ、ムギ、ダイズ等の病害虫防除等11千haであった。

畜産部門は、牧野の施肥等、5千haであった。

ミバエ部門はミバエ類の進入防止防除等が行われ、2,739千haであった。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、338千ha。うち、水稻304千ha、コムギ、ダイズ等34千haとなった。

Ⅴ 農薬の出荷状況

平成12農薬年度（平成11年10月～平成12年9月）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では1%増の341千t・k^l、金額では3%増の3,890億円程度と推定される。